

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

大台町教育委員会

平成28年11月

本年4月に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が、9月29日に文部科学省から公表されました。

調査結果や本町における児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果、今後の取組を以下のとおりまとめました。

調査結果の取扱いについては、文部科学省が示す実施要領における「(5) 調査結果の取扱いに関する配慮事項等」をご覧ください。

なお、本町からのこの調査への参加者は、小学校4校75名、中学校2校72名です。

1 教科に関する調査の結果・分析

※結果の分析は、平均正答率が全国平均正答率と比較し、5%以上のものを「強み」と捉え、5%以下のものを「弱み」として捉え記述しました。全国と比べて理解されているかどうかという観点で記述しました。

(1) 本町における特徴的な傾向

<小学校国語A>

○強み

- ・問題1-1：漢字を読む（今日は全国的に快晴だ）

平均正答率：86.7%（全国：79.3%）

→学年別漢字配当表示されている漢字を正しく読めています。

- ・問題9-3：ローマ字を読む（h y a k u）

平均正答率：62.7%（全国：50.7%）

→ローマ字で表記されたものを正しく読むことができます。

○弱み

- ・問題1-3：漢字を読む（むだを省くようにする）

平均正答率：74.7%（全国：81.0%）

→学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読めていません。

- ・問題3：ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する

平均正答率：61.3%（全国：67.4%）

→書き手の表現の仕方をよりよくするために助言することができていません。

- ・問題4：委員会を紹介するパンフレットを作るため、追加の取材をした理由として適切なものを選択する

平均正答率：70.7%（全国：78.2%）

→目的や意図に応じて、書く事柄を整理することができていません。

- ・問題7アイ：毛筆で書いた（一）と（二）を書き直した際、注意した点として適切なものを選択する（永久）

平均正答率：76.0%（全国：81.2%）

→用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列を決めることがやや理解できていません。

■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域及び評価の観点から見て、「話すこと・聞くこと」に関しては全国と比較してある程度力がついています。
- ② 学習指導要領の領域及び評価の観点から見て、「書くこと」については課題があります。「書く能力」については、今後伸ばして行かなければなりません。
- ③ 国語A問題は、全国平均と同等の力を示しています。

<小学校国語B>

○強み

- ・問題1二：スーパーマーケットの店長への質問の意図として適切なものを選択する

平均正答率：57.3%（全国：51.1%）

→質問の意図を捉えることができています。

- ・問題1三：スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く

平均正答率：57.3%（全国：50.4%）

→話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することができています。

- ・問題2二（1）：「早ね早起き」活動の課題について、〈図2〉の結果を基に書く

平均正答率：61.3%（全国：51.4%）

→目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書くことができています。

- ・問題3三：「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く

平均正答率：58.7%（全国：52.9%）

→目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読むことができています。

○弱み

- ・問題2一：「早ね早起き」活動の成果について、〈図1〉の結果を基に書いた内容として適切なものを選択する

平均正答率：28.0%（全国：43.4%）

→グラフを基に、分かったことを的確に書くことができていません。

- ・問題 2 三：「早ね早起き」活動の報告文で課題を取り上げた効果として適切なものを選択する

平均正答率：45.3%（全国：58.3%）

→活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉えることができていません。

■全体の傾向から見られる課題

- ① 学習指導要領の領域や評価の観点からみて、「書くこと」について、B問題でも若干力がついていません。
- ② 国語B問題でも、全国と同等の力を示しています。

<小学校算数A>

○強み

- ・問題 1（1）： $\square \div 0$ 。8の商の大きさについて、正しいものを選ぶ
平均正答率：73.3%（全国：64.8%）
→除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることが理解されています。
- ・問題 2（4）： $(2/9) \times 3$ を計算する
平均正答率：94.7%（全国：87.0%）
→乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をし、約分することができます。
- ・問題 7：直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ
平均正答率：85.3%（全国：78.0%）
→直方体における面と面の位置関係が理解されています。
- ・問題 8：テーブル全体の長さを基にしたときの赤い部分の長さの割合が、一番大きいものを選ぶ
平均正答率：80.0%（全国：74.4%）
→全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味について理解されています。
- ・問題 9（1）：前に10人、後ろに19人並んでいることを基に、列に並んでいる全体の人数を求める式と答えを書く
平均正答率：86.7%（全国：80.2%）
→示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことができます。

○弱み

- ・問題 4：8㎡に14人座っているシートについて、1㎡当たりの人数を求める式を書く
平均正答率：66.7%（全国：72.0%）
→単位量当たりの大きさの求め方がやや理解されていません。

■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域から見て、「数と計算」「図形」「数量関係」の3観点については全国平均と比べても高く力がついています。「量と測定」については、全国平均とほぼ同等の力を示していますが、4観点の中ではやや低く力をつけていく必要があります。
- ② 評価の観点から見て、「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」とも、全国平均より高く、算数Aについては力がついていると言えます。

<小学校算数B>

○強み

- ・問題1(2): 正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くすると面積が4cm²小さくなることの説明を書く
平均正答率: 52.0% (全国: 45.2%)
→示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述することができます。
- ・問題2(1): ハードルとハードルの間が5mのコースの、スタート地点から4台目のハードルを、巻き尺の何mのところにおけばよいか書く
平均正答率: 61.3% (全国: 56.2%)
→ハードルの数とインターバルの数の関係を式に表し、4台目のハードルの位置を求めることができます。
- ・問題2(3): 目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く
平均正答率: 24.0% (全国: 15.6%)
→示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述することができます。
- ・問題3(2): 縦39cm、横54cmの長方形の厚紙から、1辺9cmの正方形を24個切り取ることができるわけを書く
平均正答率: 48.0% (全国: 38.4%)
→縦にかくことができる正方形の数を求め、24個の正方形をかくことができる理由を記述することができます。
- ・問題4(1): 学校ごとの一人当たりの本の貸出冊数を求めるために、学校ごとの貸出冊数の合計のほかに調べる必要のある事柄を選ぶ
平均正答率: 56.0% (全国: 48.3%)
→単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができます。
- ・問題4(3): A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読み取った事柄として正しくない事柄について、正しくないわけを書く
平均正答率: 33.3% (全国: 24.9%)

→グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述することができます。

■全体の傾向から見られる課題等

- ① 数学Bは、学習指導要領の領域から「数と計算」「量と測定」「数量関係」の3観点については、全国平均より高い数値を示しているところから応用力をつけることはできていると見ることができます。
- ② 評価の観点から見て、「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・技能」の3観点についても、全国より高い数値を示していることから力がついているといえます。

<中学校国語A>

○強み

- ・問題1二：絵本のページを提示した意図として適切なものを選択する
平均正答率：83.3%（全国：78.1%）
→目的に応じて資料を効果的に活用して話すことができます。
- ・問題7一：相手の発言をどのように聞いているのかを説明したものとして適切なものを選択する
平均正答率：76.4%（全国：70.6%）
→話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較することができます。
- ・問題9一3：漢字を書く（家の庭に花をウえる）
平均正答率：95.8%（全国：89.9%）
→文脈に即して漢字を正しく書くことができます。
- ・問題9三ウ：適切な語句を選択する（弟子を手塩にかけて育てる）
平均正答率：69.4%（全国：59.3%）
→語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使えています。

○弱み

- ・問題1一：聞き手をどのように想定して話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する
平均正答率：70.8%（全国：80.7%）
→聞き手の立場を想定し、話の中心的な部分と付加的な部分との関係に注意して話すことができていません。
- ・問題2二：文章の一部を別の項目に移す理由として適切なものを選択する
平均正答率：63.9%（全国：73.2%）
→集めた材料を整理して文章を構成することができていません。

- ・ 問題 3 一：「ライスカレーの名に値する」の意味として適切なものを選択する
平均正答率：79.2%（全国：84.7%）
→文脈の中における語句の意味が理解できていません。
- ・ 問題 4 一：答えの文章を直した意図として適切なものを選択する
平均正答率：44.4%（全国：64.7%）
→文章を読み返し、文の使い方などに注意して書くことができていません。
- ・ 問題 6 二：文章について説明したものとして適切なものを選択する
平均正答率：54.2%（全国：67.3%）
→文章の構成や展開についての自分の考えを持つことができない生徒が全国より多くいます。
- ・ 問題 9 三才：適切な語句を選択する（会長候補として、白羽の矢が立つ）
平均正答率：40.3%（全国：54.0%）
→語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使えていません。
- ・ 問題 9 五：文章を書き直した意図として適切なものを選択する
平均正答率：40.3%（全国：50.8%）
→文の成分の照応について理解できていません。
- ・ 問題 9 六：題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する
平均正答率：30.6%（全国：36.4%）
→文字の大きさや、配列に注意して書き直したことが理解できていません。

■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域や評価の観点から見て、「書くこと（能力）」「読むこと（能力）」に関しては力をつける必要があります。
- ② 国語 A については、全国正答率をやや下回っています。

<中学校国語 B>

○強み

- ・ 問題 3 三：図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く
平均正答率：65.3%（全国：57.7%）
→本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことができています。

○弱み

- ・ 問題 1 一：ちらしの表と裏から分かる「暮らしの中の伝統文化展」が開かれるねらいとして適切なものを選択する
平均正答率：70.8%（全国：78.2%）

→文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉えることができている生徒がやや多くいます。

- ・問題 2 一：雑誌の記事の説明として適切なものを選択する

平均正答率：59.7%（全国：64.9%）

→文章の構成を捉えることに課題があります。

- ・問題 2 三：宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く

平均正答率：37.5%（全国：49.2%）

→課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることができていません。

- ・問題 3 二：物語に書かれている事柄について図鑑の説明から分かることとして適切なものを選択する

平均正答率：59.7%（全国：64.7%）

→目的に応じて必要な情報を読み取ることに課題があります。

■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域のうち、特に「読むこと」について力がついていないことがわかりました。今後、特に読む力をつけていかなければなりません。
- ② 学習指導要領の「書くこと」についても全国平均をやや下回っています。

<中学校数学A>

○強み

- ・問題 2 (2)： $(2x + 5y) + 3(x - 2y)$ を計算する

平均正答率：94.4%（全国：84.0%）

→整式の加法と減法の計算ができています。

- ・問題 2 (3)：ある数 a について、不等式 $a > 5$ と表せる事柄を選ぶ

平均正答率：84.7%（全国：78.2%）

→不等式の意味を読み取ることができています。

- ・問題 3 (4)：方程式 $2x + y = x - y = 3$ から、 x と y の値を求めるための連立方程式を完成させる

平均正答率：95.8%（全国：89.7%）

→2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表すことができています。

- ・問題 4 (1)：与えられた方法で作図された直線についていえることを選ぶ

平均正答率：36.1%（全国：30.9%）

→垂線の作図方法について理解している生徒が全国平均より多くいます。

- ・問題 5 (4)：円柱の体積が 600 cm^3 のとき、その円柱と底面の円が合同で高さが等しい円錐の体積を求める

平均正答率：56.9%（全国：49.9%）

- 円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の $1/3$ であることを理解している生徒が全国より多くいます。
- ・問題 7 (2) : ひし形の対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表す
平均正答率 : 87.5% (全国 : 74.7%)
→ひし形について対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表すことができます。
- ・問題 12 (1) : 読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める
平均正答率 : 54.2% (全国 : 45.5%)
→資料を整理した表から最頻値を読み取ることができている生徒が多くいます。
- ・問題 13 (2) : 1 から 13 までの数字が書かれた 13 枚のカードから 5 または 11 のカードを引く確率を求める
平均正答率 : 84.7% (全国 : 79.6%)
→簡単な場合について、確率を求めることができます。

○弱み

- ・問題 1 (2) : $-5, 0, 1, 2, 5, 4$ の中から自然数をすべて選ぶ
平均正答率 : 34.7% (全国 : 40.8%)
→自然数の意味が理解できていない生徒が全国平均より多くいます。
- ・問題 2 (1) : ある数を 3 でわると、商が a で余りが 2 になるとき、ある数 a を用いた式で表す
平均正答率 : 20.8% (全国 : 32.2%)
→数量の関係を文字式に表すことに課題があります。
- ・問題 5 (1) : 三角柱において、与えられた辺をねじれの位置にある辺を書く
平均正答率 : 69.4% (全国 : 75.5%)
→空間における直線と直線との位置関係 (辺と辺がねじれの位置にあること) が理解できていません。
- ・問題 5 (3) : 立方体の見取図を読み取り、2 つの角の大きさの関係について、正しい記述を選ぶ
平均正答率 : 70.8% (全国 : 78.8%)
→見取図に表された立方体の角の大きさの関係を読み取ることに課題があります。
- ・問題 8 : 証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについて、正しい記述を選ぶ
平均正答率 : 56.9% (全国 : 61.9%)
→証明の必要性和意味が理解できていません。
- ・問題 9 (2) : 比例 $y = 2x$ について、 x の値が 1 から 4 まで増加した時の y の増加量を求める
平均正答率 : 29.2% (全国 : 39.4%)

→比例の式について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができていません。

- ・問題9(4)：反比例のグラフから式を求める

平均正答率：27.8%（全国：34.5%）

→反比例のグラフ上の座標から、 x と y の関係を式で表すことができていません。

- ・問題10(2)：一次関数の式から変化の割合を求める

平均正答率：36.1%（全国：54.8%）

→一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合が一定で a の値に等しいことが理解できていません。

- ・問題11：一次関数の事象を式で表す

平均正答率：47.2%（全国：53.0%）

→具体的な事象における一次関数の関係を式に表すことができていません。

- ・問題12(2)：ある郵便物の重さについて、デジタルはかりで表示された値を基に、真の値の範囲を選ぶ

平均正答率：27.8%（全国：34.7%）

→測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味が理解されていません。

■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域から見て、「関数」については全国平均より低く、理解度を高める必要があります。「数と式」「図形数」「資料の活用」の3領域については、全国平均よりやや高いか、ほぼ同等の数値を示しています。
- ② 評価の観点からみると、「数量や図形などについての知識・理解」については、やや弱く、理解を深める必要があります。
- ③ 数学Aに関して、ほぼ全国平均並みの力を持っています。

<中学校数学B>

○強み

- ・問題5(1)：24.5cmの靴を最も多く買うという考えが適切でない理由を、グラフの特徴を基に説明する

平均正答率：54.2%（全国：47.6%）

→資料の傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができます。

○弱み

- ・問題1(2)：葉月さんの提案を取り入れたとき、1試合の時間を求めるための方程式をつくる

平均正答率：19.4%（全国：33.4%）

→与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することができていません。

- ・問題1(3):1試合の時間を10分とることができるかについて正しい記述を選び、その理由を式を基に説明する

平均正答率:45.8%(全国:51.4%)

→適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができていません。

- ・問題2(2): $x=4$ のとき $y=9$ になるように、 x と y の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明する

平均正答率:9.7%(全国:20.6%)

→加えるべき条件を判断し、それが適している理由を判断することができていません。

- ・問題4(2): $DA:DC=1:2$ のときの $\triangle DEC$ がどのような三角形になるかを説明する

平均正答率:25.0%(全国:37.3%)

→付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができていません。

- ・問題5(2):25.5cmの靴が貸し出された回数の相対度数を求める

平均正答率:16.7%(全国:31.1%)

→与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができていません。

- ・問題6(1):最初に決めた数が5のとき、手順通りに求めた数を書く

平均正答率:63.9%(全国:76.4%)

→問題場面における考察の対象を明確に捉えることができていません。

■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域から見て、「数と式」と「図形」については特に低く、もう一度押さえ直す必要があります。
- ③ 評価の観点からみて、「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」とともに力がついていません。

2 質問紙調査（児童生徒用・学校用）に関する調査の結果・分析

（1）自尊感情・生きる力について

【児童・生徒質問紙】

◇項目4：ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 97.4%（三重県94.9%、全国94.4%） 全国比+ 3.0
- ・生徒 93.0%（三重県95.0%、全国94.3%） 全国比- 1.3

◇項目5：難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 82.7%（三重県77.6%、全国76.1%） 全国比+ 6.6
- ・生徒 75.0%（三重県70.8%、全国69.6%） 全国比+ 5.4

◇項目6：自分には、良いところがあると思いますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 73.3%（三重県75.5%、全国76.3%） 全国比- 3.0
- ・生徒 68.0%（三重県71.3%、全国69.3%） 全国比- 1.3

◇項目9：将来の夢や目標を持っていますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 73.4%（三重県83.7%、全国85.3%） 全国比- 11.9
- ・生徒 73.6%（三重県71.0%、全国71.1%） 全国比+ 2.5

【学校質問紙】

◇項目49：調査学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県90.8%、全国90.5%）
- ・中学校 100.0%（三重県85.5%、全国85.3%）

◇項目48：調査対象の学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 75.0%（三重県77.7%、全国74.6%）
- ・中学校 50.0%（三重県97.5%、全国97.1%）

■児童の場合、「失敗を恐れなくて挑戦し」、その結果「最後までやり遂げてうれしかった」経験をしている割合が、全国よりも高い数値を示しています。しかし、自己肯定感や将来に対する夢や目標については、全国と比べて低い数値を示しています。自尊感情と生きる力の基盤となる力を育てていく必要があります。

■生徒の場合は、「最後までやり遂げてうれしかったこと」「自分に良いところがあると思う」は、やや低い数値を示していますが、全体的にほぼ全国平均に近い数値を示しています。さらに自尊感情を高める指導をしていく必要があります。

■学校質問紙で、「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」という設問では、小中学校各1校で指導をしていないという答えがでています。キャリア教育の中で取り組む内容となります。各校のキャリア教育の中での位置づけによって変わるので、一概にどの学年でということはありません。最終学年までに取り組めばよいと考えます。

(2) 生活習慣について

【児童・生徒質問紙】

◇項目1：朝食を毎日食べていますか

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

- ・児童 94.6% (三重県95.7%、全国95.6%) 全国比- 0.9
- ・生徒 100.0% (三重県93.8%、全国93.3%) 全国比+ 6.7

◇項目2：毎日同じくらいの時刻に寝ていますか

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

- ・児童 86.7% (三重県80.2%、全国80.1%) 全国比+ 6.6
- ・生徒 76.4% (三重県75.6%、全国75.2%) 全国比+ 1.2

◇項目3：毎日同じくらいの時刻に起きていますか。

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

- ・児童 96.0% (三重県91.4%、全国90.8%) 全国比+ 5.2
- ・生徒 95.8% (三重県92.7%、全国92.3%) 全国比+ 3.5

◇項目10：普段(月～金曜日)、何時ごろ寝ますか

(小…午後11時より前、中…午前0時より前)

- ・児童 96.0% (三重県87.3%、全国86.2%) 全国比+ 9.8
- ・生徒 82.0% (三重県80.0%、全国78.5%) 全国比+ 3.5

■「朝食を食べているか」という問いに対して、本年度は児童が全国平均よりやや低い数値を示していますが、94%強の児童が食べている状況にあります。また、中学生は全生徒が食べていると答えています。「寝る時間・起きる時間」については、児童・生徒とともに全国平均を上回っています。いずれにせよ、本町の児童・生徒の多くは、健全な生活をしていることが伺えます。

(3) 学習習慣について

【児童生徒質問紙】

◇項目14：学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も

含む)

(小中学校とも、1時間以上と答えた割合)

- ・児童 58.7% (三重県60.4%、全国62.5%) 全国比- 3.8
- ・生徒 75.0% (三重県65.2%、全国67.9%) 全国比+ 7.1

◇項目 15 : 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

(小中学校とも、1時間以上と答えた割合)

- ・児童 53.4% (三重県49.0%、全国57.0%) 全国比- 3.6
- ・生徒 55.5% (三重県59.8%、全国67.8%) 全国比- 12.3

◇項目 21 : 家で、自分で計画を立てて勉強していますか。

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

- ・児童 66.7% (三重県61.7%、全国62.2%) 全国比+ 4.5
- ・生徒 55.6% (三重県50.3%、全国48.4%) 全国比+ 7.2

◇項目 22 : 家で、学校の宿題をしていますか。

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

- ・児童 97.4% (三重県97.7%、全国97.0%) 全国比+ 0.4
- ・生徒 98.6% (三重県91.8%、全国90.1%) 全国比+ 8.5

◇項目 23 : 家で、学校の授業の予習をしていますか。

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

- ・児童 32.0% (三重県44.2%、全国43.3%) 全国比- 11.3
- ・生徒 58.3% (三重県34.8%、全国34.2%) 全国比+ 24.1

◇項目 24 : 家で、学校の授業の復習をしていますか。

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

- ・児童 68.0% (三重県54.2%、全国55.2%) 全国比+ 12.8
- ・生徒 58.4% (三重県48.5%、全国51.0%) 全国比+ 7.4

◇項目 25 : 家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

- ・児童 77.3% (三重県63.5%、全国64.6%) 全国比+ 12.7
- ・生徒 87.5% (三重県68.1%、全国68.2%) 全国比+ 19.3

■家庭での学習についての質問で、児童は平日・休日とも1時間以上学習をしている割合は全国と比べて低い状況にあります。生徒は、休日に1時間以上学習している割合が特に低い状況にあります。家庭での学習内容は、児童は復習はするが予習をする割合は低くなっています。中学生は、「計画を立てて学習する」から「予復習」までの4

項目とも全国平均より高い数値を示し、宿題も予習復習もともにこなしている生徒が多いことがわかります。この数値と、学力検査の結果が反対になっているところに不思議さを感じます。家庭での取組が直接学力に結びつくものでないのか、あるいは家庭学習の方法が悪いのか。他に要因があるのか、精査する必要があるのではないかとという結果です。家庭学習については、家庭と連携し家庭学習のあり方を見直す必要があるのか検討しなくてはならないと考えます。

(4) 読書習慣について

【児童生徒質問紙】

◇項目 17：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

（「30分以上」と回答した割合）

- ・児童 21.3%（三重県34.4%、全国36.5%） 全国比－15.2
- ・生徒 29.2%（三重県26.0%、全国28.3%） 全国比＋0.9

◇項目 18：昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか

（「週1回以上行く」と回答した割合）

- ・児童 18.7%（三重県15.1%、全国16.4%） 全国比＋2.3
- ・生徒 11.1%（三重県7.3%、全国7.6%） 全国比＋3.5

◇項目 64：読書は好きですか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 74.6%（三重県74.3%、全国74.6%） 全国比±0.0
- ・生徒 68.1%（三重県69.4%、全国69.9%） 全国比－1.8

【学校質問紙】

◇項目 24：調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか

（「月に数回程度行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県39.0%、全国43.1%）
- ・中学校 0.0%（三重県10.7%、全国11.7%）

■普段の読書に取っている時間は、児童は全国平均よりも低い数値を示しています。また、読書活動のための学校図書館・室等の活用については、全国平均と比較すると児童・生徒とも全国より高くなっています。「読書が好きか」という問いには、全国平均並みの数値を示しています。読書活動には、どの学校も取り組み「朝の読書活動」を行っています。現在、小学校において学校図書室のリニューアルを、大台町立図書館と協力して進めています。26年度に三瀬谷小学校、27年度には川添小学校を。

28年度は日進小学校の図書室をリニューアルしました。子どもたちが、気持ちよく読書できる体制をつくっていきたいと考えています。また、図書館司書の学校へ出かける時間の増加を図って行きたいと考えています。

■図書館資料を活用した授業を計画的に行ったかという学校への質問には、小学校は全校が資料を使った授業を組んでいるが、中学校はできていません。全国も低い数値を示していますが、中学校は受験等も考えていくと資料を使って授業をするだけの余裕がないということも言えます。

(5) メディアとの接触時間について

【児童生徒質問紙】

◇項目 11：普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く）

（「2時間以上」と回答した割合）

- ・児童 61.3%（三重県57.1%、全国57.1%） 全国比+ 4.2
- ・生徒 51.4%（三重県50.4%、全国48.7%） 全国比+ 2.7

◇項目 12：普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか

（「2時間以上」と回答した割合）

- ・児童 27.9%（三重県30.7%、全国29.7%） 全国比- 1.8
- ・生徒 38.9%（三重県38.3%、全国34.9%） 全国比+ 4.0

◇項目 13：普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）

（「2時間以上」と回答した割合）

- ・児童 8.0%（三重県10.6%、全国10.4%） 全国比- 2.4
- ・生徒 37.5%（三重県32.9%、全国30.1%） 全国比+ 7.4

※参考

携帯電話やスマートフォンを持っていない児童・生徒

- ・27年度児童50.0%（三重県43.2%、全国42.0%） 全国比+8.0
- ・28年度児童46.7%（三重県38.8%、全国38.9%） 全国比+7.8
- ・27年度生徒23.3%（三重県17.1%、全国21.4%） 全国比+1.9
- ・28年度生徒15.3%（三重県15.0%、全国18.8%） 全国比-3.5

■テレビやビデオ・DVDの視聴は、全国と比較して児童・生徒ともやや高くなっています。テレビゲーム等に関しては、小学生は全国と比較して数値が低くなっています

が、中学生の数値が上がっています。昨年に比べて小学生のゲームに費やす時間は10%ほど下がり、逆に中学生は10%ほど数値が上がっています。中学生がゲームに没頭する様子が伺えます。

■携帯電話やスマートフォンの使用については、小学生は全国と比べて低い数値を示していますが、中学生は全国と比較して高い数値を示しています。参考にした携帯電話やスマートフォンを持っていない児童や生徒は、小学生でっていない児童が昨年度より3.3%増え、中学生も8.0%増えたという結果が出ています。本町に限らず、全国的に携帯電話やスマートフォンを持つ人が増えるという傾向にありますが、本町の中学生の伸びが著しくなっています。

(6) 学校・先生・授業について

【児童生徒質問紙】

◇項目 26：学校に行くのは楽しいと思いますか

(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合)

- ・児童 84.0% (三重県86.9%、全国86.3%) 全国比－ 2.3
- ・生徒 87.5% (三重県84.0%、全国81.4%) 全国比＋ 6.1

◇項目 28：学校で、好きな授業がありますか

(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合)

- ・児童 94.6% (三重県94.3%、全国93.5%) 全国比＋ 1.1
- ・生徒 91.7% (三重県82.7%、全国79.9%) 全国比＋ 11.8

◇項目 31：学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・児童 88.0% (三重県86.0%、全国86.3%) 全国比＋ 1.7
- ・生徒 90.3% (三重県84.5%、全国84.2%) 全国比＋ 6.1

◇項目 32：先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・児童 84.0% (三重県83.8%、全国82.6%) 全国比＋ 1.4
- ・生徒 77.8% (三重県79.6%、全国78.0%) 全国比－ 0.2

◇項目 33：先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・児童 86.7% (三重県87.8%、全国84.8%) 全国比＋ 1.9
- ・生徒 77.7% (三重県77.4%、全国74.1%) 全国比＋ 3.6

◇項目 60：授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。

（「その場で先生に尋ねる」「授業が終わってから先生に尋ねに行く」と回答した割合）

- ・児童 42.6%（三重県28.7%、全国25.0%） 全国比+17.6
- ・生徒 19.4%（三重県22.0%、全国19.6%） 全国比-0.2

（「そのままにしておく」と回答した割合）

- ・児童 0.0%（三重県4.2%、全国4.9%） 全国比+4.9
- ・生徒 5.6%（三重県6.3%、全国7.3%） 全国比+1.7

◇項目 63：国語の授業内容はよく分かりますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 80.0%（三重県81.4%、全国80.7%） 全国比-0.7
- ・生徒 73.7%（三重県75.5%、全国74.1%） 全国比-0.4

◇項目 73：算数・数学の内容はよく分かりますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 80.0%（三重県82.6%、全国80.2%） 全国比-0.2
- ・生徒 66.7%（三重県74.9%、全国69.4%） 全国比-2.7

■「学校」については、児童の場合3項目とも、全国平均並みの数値を示しています。ただ、「学校へ行くのが楽しい」と答えた児童が、全国平均より低いですが、どこに原因があるのか見ていく必要があります。生徒に関しては、3項目とも全国に比べて高くなっています。

■「先生」については、「よいところを認めてくれている」と感じている児童・生徒が全国と比べてほぼ同等の数値を示しています。「間違えたところや理解していないところを分かるまで教えてくれる」と答えた児童・生徒は、全国平均よりやや高い数値を示しています。教員がある程度適切に取り組んでいることが伺えます。

■「授業」については、「授業の中で分からないことがあったらどうするか」という問いには、「先生に尋ねる」と答えた児童が全国平均より高い数値を示しています。また、「そのままにしておく」と答えた児童はなく、友達に聞いたり、保護者に聞いたりしています。生徒は、全国平均並みの答えをしています。「そのままにしておく」と答えた生徒もいますが、その比率は全国と比べても低くなっています。

※先生・友達に聞くと答えた児童生徒

- ・児童 78.6%（三重県61.3%、全国56.7%） 全国比+21.9
- ・生徒 58.3%（三重県57.6%、全国54.5%） 全国比-3.8

■「授業」で、「国語、算数・数学の内容がよくわかりますか」については、児童・生徒とも、両方とも全国と比べて低くなっています。今後とも、授業の改善に取り組み、わかる授業を心がけていかなければなりません。

(7) 家庭・地域・社会について

【児童生徒質問紙】

◇項目 19：家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

- ・児童 73.3%（三重県78.2%、全国79.2%） 全国比－ 5.9
- ・生徒 70.9%（三重県73.7%、全国74.1%） 全国比－ 3.2

◇項目 20：家の手伝いをしていますか

（「よくしている」「時々している」と回答した割合）

- ・児童 85.4%（三重県82.5%、全国82.8%） 全国比＋ 2.6
- ・生徒 63.9%（三重県66.8%、全国67.2%） 全国比－ 3.3

◇項目 34：今住んでいる地域の行事に参加していますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 84.0%（三重県73.1%、全国67.9%） 全国比＋16.1
- ・生徒 81.9%（三重県50.9%、全国45.2%） 全国比＋36.7

◇項目 35：地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 80.0%（三重県71.3%、全国70.6%） 全国比＋ 9.4
- ・生徒 84.7%（三重県65.9%、全国65.8%） 全国比＋18.9

◇項目 36：地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか

（「参加したことがある」よ回答した割合）

- ・児童 30.7%（三重県30.8%、全国36.2%） 全国比－ 5.5
- ・生徒 75.0%（三重県45.7%、全国48.7%） 全国比＋26.3

◇項目 37：新聞を読んでいますか

（「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と回答した割合）

- ・児童 29.3%（三重県24.7%、全国24.0%） 全国比＋ 5.3
- ・生徒 22.2%（三重県19.4%、全国18.3%） 全国比＋ 3.9

◇項目 38：テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む

（「よく見る」「時々見る」と回答した割合）

- ・児童 88.0%（三重県85.0%、全国86.4%） 全国比＋ 1.6
- ・生徒 90.3%（三重県87.6%、全国87.4%） 全国比＋ 2.9

■「家庭」では、児童・生徒とも家の人と学校の出来事について話をする割合は、全国よりも低い状況が見られます。学校のことを話題にするだけの取り組みが必要なのか

もしれません。また、家の手伝いは、児童の方がよくしています。

- 「地域・社会」では、児童・生徒とも「地域の行事」への参加率は、全国を大きく上回っています。また、地域などで起こっている問題や出来事に関心があると答えて割合も、全国に比べて高くなっています。地域でのボランティアについては、児童は低くなっていますが、生徒は全国と比べて高い数値を示しています。

過疎地である大台町では、子どもたちが地域の良さ、地域の人々の温かさに触れ、地域に愛着を持つ活動が大切であり、またそのための活動を各学校で取り組んでいます。その結果の現れと考えられます。今後も地域に根ざした取り組みを進めていきます。

(8) 見通す・振り返る活動（主体的な学び）について

【児童生徒質問紙】

- ◇項目 53：5年生までに（1，2年生のときに）受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 93.4%（三重県88.8%、全国87.6%） 全国比+ 5.8
- ・生徒 94.4%（三重県85.5%、全国84.9%） 全国比+ 9.5

- ◇項目 54：5年生までに（1，2年生のときに）受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 72.0%（三重県76.9%、全国76.1%） 全国比- 4.1
- ・生徒 63.9%（三重県68.8%、全国63.1%） 全国比+ 0.8

- ◇項目 55：5年生までに（1，2年生のときに）受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 92.0%（三重県88.3%、全国87.9%） 全国比+ 4.1
- ・生徒 81.9%（三重県73.8%、全国76.8%） 全国比+ 5.1

【学校質問紙】

- ◇項目 36：調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県 98.7%、全国98.8%）
- ・中学校 100.0%（三重県100.0%、全国97.8%）

- ◇項目 37：調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0% (三重県 93.0%、全国 94.9%)
- ・中学校 100.0% (三重県 96.2%、全国 93.0%)

◇項目 41：調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導しましたか
（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0% (三重県 94.6%、全国 96.4%)
- ・中学校 50.0% (三重県 87.4%、全国 88.9%)

■「見通す・振り返る」活動では、目標を提示していると答えた児童・生徒は全国平均よりも高く、授業のはじめに示されています。しかし、学習内容の振り返りに関しては、児童では行っていたという割合は全国に比べて低くなっています。しかし、ノートには目標とまとめを書いていたという児童・生徒は多くいます。
「学校質問紙」では、全ての学校が授業の中で目標を提示し、振り返る活動を行ったと回答しています。児童・生徒と学校の乖離を埋めていく必要があります。

（9）話し合う活動（対話的な学び）について

【児童生徒質問紙】

◇項目 51：5年生までに（1，2年生のときに）受けた授業で、学級の友達との（生徒の）間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか
（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 81.4% (三重県 77.9%、全国 77.1%) 全国比+ 4.3
- ・生徒 86.2% (三重県 74.8%、全国 72.4%) 全国比+ 13.8

◇項目 52：5年生までに（1，2年生のときに）受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか
（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 54.7% (三重県 63.3%、全国 64.2%) 全国比- 9.5
- ・生徒 62.5% (三重県 58.9%、全国 57.7%) 全国比+ 4.8

◇項目 56：5年生までに（1，2年生のときに）受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか
（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 81.4% (三重県 78.6%、全国 77.6%) 全国比+ 3.8
- ・生徒 77.8% (三重県 75.2%、全国 74.1%) 全国比+ 3.7

◇項目 59：学級の友達との（生徒の）間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合）

- ・児童 69.3%（三重県67.5%、全国68.3%） 全国比+ 1.0
- ・生徒 73.6%（三重県64.8%、全国64.8%） 全国比+ 8.8

【学校質問紙】

◇項目 21：調査対象学年の児童・生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

（「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合）

- ・小学校 75.0%（三重県60.0%、全国61.2%）
- ・中学校 50.0%（三重県57.2%、全国59.7%）

◇項目 50：調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、道徳の時間において、児童自らが考え、話し合う指導をしましたか

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県90.9%、全国90.5%）
- ・中学校 50.0%（三重県83.1%、全国88.8%）

◇項目 19：調査対象学年の児童・生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

（「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県71.6%、全国69.2%）
- ・中学校 50.0%（三重県78.0%、全国70.5%）

■「話し合う活動」で、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」とする児童は、全国より10ポイントぐらい低くなっています。しかし、他の項目はどれも全国より高い数値を示しており、話し合う活動は活発に行われていたことが伺われます。

一方で、学校質問紙では、「児童・生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を尾公子とができていると思いますか」とい問いには、小学校3校、中学校1校ができていると答えています。

（10）書く・説明する活動（言語活動）について

【児童生徒質問紙】

◇項目 57：400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか

（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合）

- ・児童 69.3% (三重県67.7%、全国60.4%) 全国比+ 8.9
- ・生徒 62.5% (三重県64.7%、全国62.8%) 全国比- 0.3

◇項目 58：学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか

(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合)

- ・児童 52.0% (三重県57.7%、全国54.8%) 全国比- 2.8
- ・生徒 65.3% (三重県64.6%、全国62.8%) 全国比+ 2.5

【学校質問紙】

◇項目 38：調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか

(「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

- ・小学校 100.0% (三重県91.4%、全国92.8%)
- ・中学校 100.0% (三重県86.8%、全国88.9%)

◇項目 47：調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか

(「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

- ・小学校 100.0% (三重県94.6%、全国93.9%)
- ・中学校 100.0% (三重県88.0%、全国91.3%)

■「書く・説明する活動」では、「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい」とした児童は、全国よりも高い数値を示しています。生徒は、全国平均並みです。それに対して、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」とする児童は少なく、逆に、生徒は全国平均を上回っています。感想文・説明文を書くことと、自分の考えを書くことで全く逆の結果が出ています。

学校質問紙では、言語活動の位置付けや自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導は、各小中学校とも行っています。

(11) 課題解決的な学習について

【児童生徒質問紙】

◇項目 50：5年生までに（1，2年生のときに）受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・児童 74.6% (三重県75.0%、全国75.7%) 全国比- 1.1
- ・生徒 79.1% (三重県73.1%、全国69.3%) 全国比+ 9.8

【学校質問紙】

◇項目 44：調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、授業において、児童・生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

(「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

- ・小学校 100.0% (三重県 77.4%、全国 80.1%)
- ・中学校 50.0% (三重県 68.6%、全国 72.6%)

■「課題解決的な学習」では、学級やグループの中で日分たちの課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んだという児童は、全国よりやや少なく、一方、取り組んだとする生徒は、全国値よりも多くなっています。

学校質問紙では、中学校 1 校を除いて、課題解決的な学習に取り組めたとしています。中学校 1 校が満足できていないのかもしれませんが、生徒は取り組んでいると評価しています。

(12) 規範意識に関わって

【児童生徒質問紙】

◇項目 39：学校のきまりを守っていますか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・児童 97.3% (三重県 91.8%、全国 91.5%) 全国比+ 5.8
- ・生徒 100.0% (三重県 95.9%、全国 94.7%) 全国比+ 5.3

◇項目 40：友達との約束を守っていますか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・児童 94.6% (三重県 97.7%、全国 97.2%) 全国比- 2.6
- ・生徒 98.6% (三重県 97.9%、全国 97.2%) 全国比+ 1.4

◇項目 41：人が困っているときは、進んで助けていますか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・児童 89.4% (三重県 86.7%、全国 84.6%) 全国比+ 4.8
- ・生徒 87.5% (三重県 85.3%、全国 83.8%) 全国比+ 3.7

◇項目 42：いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・児童 98.7% (三重県 96.8%、全国 96.6%) 全国比+ 2.1
- ・生徒 95.8% (三重県 93.7%、全国 93.6%) 全国比+ 2.2

◇項目 43：人の役に立つ人間になりたいと思いますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 93.4%（三重県94.5%、全国93.8%） 全国比－ 0.4
- ・生徒 95.8%（三重県93.0%、全国92.8%） 全国比＋ 3.0

【学校質問紙】

◇項目 51：調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校100.0%（三重県97.3%、全国96.6%）
- ・中学校100.0%（三重県98.1%、全国97.9%）

■「学校のきまりを守っていますか」という項目については、児童では2.7%が守っていないとこたえています。生徒は全員が守っていると答えています。ともに全国よりも5ポイント以上高くなっています。

「友達との約束は守っていますか」では、児童が全国平均よりやや低くなっています。

「人が困っているときは、進んで助ける」と答えた児童・生徒が、全国よりも高い数値を示しています。

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対して、多くの児童・生徒はいじめはいけないことだと考えています。また、全国値より高い数値も示しています。しかし、私たち教育に携わる者としては、何があっても「いじめ」は「悪い」ことだと答えられる子どもを育てて行かなくてはなりません。今後も、人権教育等に取り組み、心の豊かな児童・生徒の育成に努めて参ります。

■学校質問紙で、「学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守る）の維持を徹底しましたか」という問いに対して、各小中学校ともに行ったと答えています。学力向上にしても、生活習慣の形成にしても、学習規律を形成することは基本となります。児童・生徒にそのことを理解させるよう今後とも各校で取り組んでいきたいと思ひます。

(13) 調査結果の取扱い

【学校質問紙】

◇項目 59：平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか

（「よく行った」「行った」と回答した割合）

- ・小学校100.0%（三重県99.5%、全国98.7%）
- ・中学校100.0%（三重県98.7%、全国97.4%）

◇項目 60：平成 27 年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動をするために活用しましたか
(「よく行った」「行った」と回答した割合)

- ・小学校 100.0% (三重県 97.6%、全国 97.0%)
- ・中学校 50.0% (三重県 95.5%、全国 94.8%)

◇項目 61：平成 27 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか (学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)
(「よく行った」「行った」と回答した割合)

- ・小学校 100.0% (三重県 98.4%、全国 90.9%)
- ・中学校 100.0% (三重県 95.6%、全国 86.9%)

◇項目 62：平成 27 年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか
(「よく行った」「行った」と回答した割合)

- ・小学校 100.0% (三重県 95.5%、全国 90.2%)
- ・中学校 0.0% (三重県 85.6%、全国 83.8%)

■「調査結果の取扱い」については、小学校は全ての項目でできていますが、中学校でできていないところがあります。今後、できることから取り組んでいきたいと思いません。

3 大台町におけるこれまでの取り組みと成果と課題

(1) これまでの取り組み

- 「大台町学校教育の方針」の策定と各学校での具体化した取り組み。
- 大台町小中学校連携推進事業の中で、学力向上推進委員会主催による全体研修会の開催
- 学力向上推進委員会における、C R T（学力標準検査）の分析結果や学力向上の取り組みの交流。
- 多気郡学力向上推進会議における講師を招聘しての研修会の開催と実践交流。
- 平成27年度は、多気郡指導室指導主事等による学校訪問と授業研究・事後検討会における指導・助言。
平成28年度以降は、町教委指導主事等による授業研究等での指導・助言。
- 学校図書館・室の充実のため、町図書館司書を派遣。
- 町の図書館司書と連携した資質向上の取り組み。

(2) 成果と課題

【教科に関する調査より】

① 各教科の平均正答率と無回答率の状況

- 小学校は国語Aは全国平均の数値を示しています。国語B、算数Aに関しては全国平均よりやや高い数値を示しています。算数Bについては、全国平均より高い数値を示しています。中学校は、国語AとB及び数学Aは、全国平均よりやや低い数値を示しています。数学Bは全国平均より低い数値を示しています。
- 無回答率が、全国に比べて低くなっています。
 - ・小国…大台町 3. 6%（三重県 4. 7%、全国 5. 0%）
 - ・小算…大台町 6. 5%（三重県 4. 3%、全国 4. 6%）
 - ・中国…大台町 2. 0%（三重県 3. 2%、全国 3. 2%）
 - ・中数…大台町 9. 3%（三重県 9. 8%、全国10. 5%）

小学校の算数の無回答率が全国より高くなっていますが、小学校の国語と中学校の国語・数学は、とも無回答率が低くなっています。学校において、最後までがんばるように取り組んでいる成果が現れているものと思われます。

② 設問別の正答率の状況（成果◇・課題◆）

〈小学校〉

- ◇国語…目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合ったり、図と表とを関係付けて読むことができます。
- ◇算数…整数や小数、分数の四則計算ができます。
示された条件を基に同じきまりが成立するかを調べたり、正方形に内接する円の半径について理解しています。
- ◇国語、算数の記述式問題の正答率が、全国比で見ると向上しています。
- ◆国語…グラフの読み取りや活動報告文における課題を取り上げた効果を捉えることができていません。
- ◆算数…式の意味を解釈し、記述することができていません。

〈中学校〉

- ◇国語…目的に応じて必要な情報を読み取ることができます。

- ◇数学…与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理することができています。
- ◇国語、数学の無解答率が、全国と比べて低くなっています。
- ◆国語…課題に対して情報の収集方法を考えることができていません。
- ◆数学…必要な情報を選択し、的確に処理したり解釈したりすることができていません。
- ◆数学…理由や方法等を数学的な表現を用いて説明することができていません。
- ◆国語、数学の記述式問題の正答率が、全国比で見ると低くなっています。

4 児童生徒の学びの充実を図るための今後の取組

- 各学校において、引き続き全ての児童生徒が、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう授業づくりを進めます。
- 各学校において、思考力・判断力・表現力を育む授業づくりを進めます。特に「活用する力」視点をあて、事象や情報を分析・解釈する力や、理由や方法を根拠を明らかにして、記述・説明する力の育成等に視点をあて、その具体的な手立てや検証方法について、研究を進めます。
- 各学校での研修会を充実し、学校の教育活動に学力向上のPDCAサイクルを無理なく位置づけます。
- 各学年段階で、学習指導要領に基づいた学力が育成できているかを検証する手立ての見直しを行い、より有効なものにしていきます。
(学力検査、スタディ・チェック、ワークシート等の活用)
- 小中学校連携教育推進会議において、全国学力・学習状況調査、学力検査の分析結果や学力向上の取り組みの交流を継続するとともに、より有効な内容・方法に改善していきます。
- 「見通す・振り返る活動」を重視した授業づくりを進めます。
(ノートの活用)
特に「振り返る活動」について、その時間が確保できるような授業展開を工夫するとともに、児童生徒の学力の定着につながるあり方を工夫します。
- 特に国語科において、各単元の指導事項を把握・確認し、6(3)年間を見通した系統立てた指導を行います。(「書く」活動の重視)
- メディアへの接触時間(特に携帯電話やスマートフォン)について、チェックシートを活用するなどして、家庭と連携して改善への取り組みを引き続き行います。
- 学校図書館、町図書館との連携をさらに深めるとともに、図書館を活用した授業づくりをさらに進めます。